

2000年10月1日
第3巻第4号(通巻12号)

ハイライト

特集：旅について

2

温故知新？

エーゲ海クルージング

3

世界中でもっとも長い旅

エッセイ：卒業から半年

4

学生団体・サークル情報

UA神奈川学習センター

あき だより



[イラスト：坂戸五葉]

放送大学神奈川学習センター
〒232-0061 横浜市南区大岡 2-31-1
TEL:045-710-1910
FAX:045-710-1914
<http://u-air.net/kanagawa/>

温故知新？

佐々木 恭夫

7月初旬に妻と近所のご夫妻をお誘いして、6泊8日のアメリカ西海岸ツアーに参加してきました。西海岸は前回仕事で訪れたのが独立200年祭の時ですから、25年振りということになります。観光先は、ロス、ラスベガス、グランドキャニオン、サンフランシスコそしてヨセミテ公園と多彩に組み込まれたツアーで、干支を5回も迎えた小生には、少々こたえた旅でもありました。なにしろメキシコのティファナでの買い物まであるのですから。

ところで、アメリカの国土は日本の何倍かご存じですか？ そうです26倍で世界第3位の広さなんです。ちなみに1位はダントツでロシア、2位はカナダなんです。日本は60位で、次がドイツです。1492年コロンブスによって発見されてから約500年、文化的歴史としては、比較

的新しい国であると言えますが、今度の旅でグランドキャニオンの日没のシーン、日の出のシーン、はたまた、ヨセミテ公園の巨大絶壁エル・キャピタン（絶壁の高さ700m）などをじーっと見ていると、これがアメリカの文明ではないかと、変な錯覚に陥ってしまいます。アメリカ人のおおらかな気質もきっと、このような悠久の文明？の中で育まれたせいではないかなどと考えさせられました。

このような大自然があるかと思うと、一方では大自然を強引にねじ伏せて、砂漠の中にラスベガスのようなキンキラキンの大都市を建設してしまう、アメリカの巨大なパワーに恐ろしさを感じるの、私一人ではないのではないかなど、一人で納得したりさせられました。

私は、サークル「うえるかむ」のあまり真面目でないメンバーではありますが、英

特集：旅について

会話を勉強していて、本場で試す絶好のチャンスで、妻にもいい格好を見せられるのではないかと、密かに期待していたのですが、ホテル内の朝食のレストランが判らずに行き方を聞いたくらいで、ついで試す機会が無かったことが、今でも悔やまれます(?)

おまけにラスベガスではリタイヤ前の会社の先輩に会う始末で、更にはメキシコでの買い物では「社長！社長！」と日本語で呼びかけられて、つい財布の紐を緩めたりで、「うえるかむ」の成果をついで試さずに日本再上陸となった次第です。

こういうのを「温故知新」と言ったら大間違いでしょうか。

特集：旅について

エーゲ海クルージング - ギリシャ・トルコの旅 吉田 昭二

7月1日夜遅くアテネに着き、2日はアクロポリスの丘のパルテノン神殿とスニオン岬のサンセットを見た。一行17名(9名のクラスメートと夫人8名)は3日ピレウス港でオリムピック・カウンテス号(18,000総噸、乗客定員800名)に乗船。4泊5日のエーゲ海クルーズに出航した。夕刻最初の寄港地ミコノ島に到着接岸上陸バスにて市内へ、ごんまりした白亜の教会、プティック、タベルナ、土産物屋等が並ぶ石畳の迷路をやっと抜けて、カト・ミリの風車の丘に出て写真。休憩後船に戻りディナー。船はトルコ本土のクシャダスに向けて出航。

4日早朝、クシャダスに入港。直ちに聖母マリアの家とエフィソス遺跡観光に出発。ギリシャ、エーゲ海とトルコ観光の最大の目玉と云われるだけあって、エフィソス遺跡の壮大さと二千年から三千年の昔にこの様な都市を建設した古代人のパワーに圧倒された。クレオパトラとアントニウスが手を繋いで歩いたという大理石張りの大通りを歩きながら、アテネの遺跡は現代の大都市の中に溶込んでいると感じた。後日訪れるイスタンブールでは中世から現代まで都市としての連続性があるがエフィソス遺跡が現代と断絶しているのは何故だろうか。千年後の無人の新宿高層ビル街を見る未来の人類も同じ思いだろうか等々を考えた。

正午前、クシャダスを出航して直ぐに、

パトモス島のスカラに入港接岸。山頂に在る聖ヨハネがローマから追放後黙示録を書いたと伝えられる洞窟と、聖ヨハネを記念して十世紀末に建てられた聖ヨハネ修道院を見学後帰船した。今日はグreekナイトで、一行17名はギリシャ国旗の青と白をあしらったネクタイ、ハンカチ、スカーフ等を身に着けた紳士淑女に変身して、ディナーとナイトショウに臨み、クルージングの醍醐味を満喫した。

5日早朝、ロドス島の北端のロドス港に入港。相前後して入港したクルーズ船が数隻接岸していた。岸壁からバスで途中陶磁器工場を見学。ショッピングの後、南へ47キロの古代ポリスの廃墟に建設されたリンドスの街へ向かう。エーゲ海特有の白亜の建物(多くは土産物屋)と、迷路のような石畳の路地を抜け、更に山肌に沿った険しい山道を登ってアクロポリスの遺跡に辿り着いた。途中山肌一面に、大はベッコパーから小は子供用のハンカチまで、大小種々雑多なレースを並べた野天の土産物屋が印象的であった。考古学には門外漢の私はどの遺跡を見ても皆同じ様に見え、古代文明に驚嘆するのみである。ロドスに戻って、十四世紀に聖ヨハネ騎士団が建設した海沿いの城壁に囲まれた旧市内を見て廻った。城壁内の建物は团长宮殿、騎士団の病院、各国騎士団の宿舎等が博物館や美術館になっているが、多くは十四、五世紀の建造当初の儘で、その中で現代の人達が遅しく

生活しているのは当に文明の連続と感心した。船に戻って、ブリッジの見える前部甲板で、出航準備から出航までの乗組員の作業を見る。クラスメート全員造船屋で、間接的ではあるが操船に関係した昔の杵柄を思い出した次第。夜は船長主催のカクテルパーティー、全員めかし込んで会場入り口で船長と握手して席に着く。夕食後ショウを見てから就寝。

6日未だ暗い内から甲板に出て、エーゲ海の日の出を見ながら、九千年の昔に始まるミノア文明の島クレタ島イラクリオン入港を待つ。接岸後郊外のクノッソス宮殿遺跡の観光にゆく。最初の宮殿は約四千年前に建てられ地震により崩壊したが再建され、その後サントリーニ島の大爆発により再び崩壊し、三千五百年前最終的に消失した。昼前にはイラクリオンを後にして最後の寄港地サントリーニ島に向けて出航した。プラトンの著作に出てくる幻の大陸アトランティスだと伝えられるサントリーニ島は紀元前千四百五十年頃の火山の大爆発によって、円形の大部分が海中に沈んで三日月形になり、その後の地震で一部が分離したり海中から隆起したりして、現在の島々を形成している。湾内に入り陥没の跡を露わに示す300メートルの褐色の絶壁の上に並ぶ白亜の町並みを見上げると、何とも言えな

い歴史のロマンを感じた。沖泊まりして、テンダーボートで上陸。バスはヘアピンカーブの崖道を通って崖の上に出て島の南西端のアクロティリ遺跡の観光に向かう。遺跡は現在発掘中で全体に大きな屋根がかけられていたが、屋内

の温度が何と47度Cだったとの事。併し日本の夏程苦しくは無かった。フィラの街でバスを降り、絶壁に突き出たベランダのあるホテル、レストラン等の並んだ町並みを抜けてケーブルカー乗り場に到着、300メートルの絶壁を一気に降り待ち受けて

いたテンダーボートで帰船した。帰船直後、船はピレウスに向けて出航。

7日ピレウスで上陸。一行17名は三つに別れ、パリ、ベネチア、イスタンブールに向かう。

特集：旅について

ハンムラビ法典が東京の世田谷美術館で公開されている。今世紀の初めにフランス人によって西アジアで発掘されてから、ルーブル美術館に収蔵され、それ以後海外持ち出しが許されたのは今回が初めてである。おそらく展示したいという希望は、これまで世界中の国から何度となくあったであろうから、この法典が日本という極東の島国へ初めて「旅」したことは歴史上画期的な出来事であったといっただろう。それにしても、なぜ人類はハンムラビ法典にこれほど執着し、そして旅をさせたがるのであろうか。

じつは、ハンムラビ法典の旅は、今回が初めてではない。紀元前1760年代に制作された後、隣国の侵略に会い、バビロニアからスーサへ持ち去られた。このときすでに、この法典には略奪されるほどの価値のあることが、隣国の人びとに判っていたということではないだろうか。そしてのちには人類全体にとっても、共通財産として認められたということではないか。けれども、石碑としての法典は王権の衰退と共に失われていき、最期には砂の

世界中でもっとも長い旅

坂井 素思

中に埋もれてしまったのであるが、書かれた内容はわたしたちのなかに累々と受け継がれてきた。これは時間・空間を超えた「旅」と呼んでよいのではないか。

なぜハンムラビ法典がこれほど空前のグローバルな旅を、今日まで続けることになったのか。その理由は、三つあるように思われる。まず第一に、ハンムラビ法典を旅に強く押し出したのは、「文字」の発明であった。楔形文字が標準化され形式が整えられて、他国でもそれが利用可能になったという事情が効いた。人間の根本的な技術革新がここでまず作用した。第二に、この法典を遠くへ連れ出したのは、「権力」であった。王権の維持にこのような判例集を編纂する必要があった。後に、グーテンベルク印刷術が近代というシステムを準備したように、法典は古代において社会秩序を準備したのである。第三に、決定的であったのは、この法典が「世界最古」のいくつかの判例集のひとつであり、こののち人類共通の財産となった「法の支配」という社会の根本原理を提供した点である。この点では、最古であるから価値があるのではなく、今日でも世界中の人びとに影響力

を持っているから重要なのである。「目には目を、歯には歯を」などの有名な規則として、あるいはこの因果応報を緩和させる規則として、今日でも人びとの中を深く旅してまわっている点で価値がある。

もし塑像や装飾品のような美術品としてのみ認められたならば、この法典はそれほどもはやされることはなかった。石碑としての旅は、おそらく略奪された時点で終わったのである。ところがじつはその後にこそ、ハンムラビ法典は世界でもっとも長い旅を続けたのである。今日、わたしたちの法習慣のなかへまで、見えざる形で深く歩んできているのである。いわば「観念への旅」と呼んでよいだろう。はじめは、粘土板などに書写されコピーが作られ、のちに各国の法律書のなかに影響を残し、最終的には人びとの生活のなかを「旅」することになったのである。いまだかつて、人類の発明したもののなかで、これほど気の遠くなるような距離の長い、そして時間をかけた「旅」を行なったものはあっただろうか。

卒業から半年

松本 肇

「ようし、オレも放送大学の卒業生になってやろうじゃないの!!」と思ったのは、1997年の初夏。大学進学関係を専門とするフリーライターとして独立した直後、東大で行われた学位授与機構の試験の取材をしたときでした。

学位授与機構の試験に訪れたある女性にインタビューしたところ、彼女は看護短大を卒業し、大学病院で看護技師として働きながら、放送大学で学習してきたというのです。その集大成として、学士（看護学）を取得したいとのことでした。

後日、彼女と再会し、放送大学のシステムや授業の様子などを聞いたところ、まるで海外旅行やディズニーランドの思い出を語るように、目を輝かせて「あんなに楽しかった学生時代は今までに無かった」と言うのです。彼女はその後、

都内の私立大学の大学院で心理学を専攻し、神奈川県内の看護短大で講師として勤務されています。

さて、私は当時、某私立大学の大学院を経て修士（法学）を取得しておりましたし、学歴を重ねたところでフリーの私にとって、金銭的なメリットは全くありません。しかし、その時まで、目を輝かせるほどの感動を、大学で体験したことなど、全くありませんでした。

私は何でも自分で体験してみないと嫌な性格なので、早速放送大学の編入学手続きを行い、自然の理解専攻に入学しました。「自然の理解」を選んだのは、少年時代に夢見た宇宙飛行士に少しでも近づけるためでした。

入学から2年半が経ち、卒業式を迎えることができました。ふと気付いてみると、放送大学で得たものは、最先

端の理系知識、思考の方法、学士（理学；総合理学）に必要な単位、そして、実に多くの友人でした。

大学を卒業した方々が、口々に「大学では遊んでばかりいたけど、あの時にできた友達が最高の宝だよ」と、よく言われますが、まさに私も同じで、放送大学で知り合うことのできた学友たちは私にとって、金に換えられない大きな財産です。この学友たちとは、ホームページの掲示板や電子メールなどを使って、何か理由をつけては集まって飲み会を開いています。

さて、家族からは「いつまで学生やるの?」と呆れられてしまう私ですが、懲りもせず、今度は「産業と技術」へ今年の春に再入学しました。次に狙うのは、最先端の経営学知識、思考の方法、学士（経営学）に必要な単位、そして更に多くの友人です。

エッセイ

学生団体・サークルのお知らせ

Nancy Class & “うえるかむ”

サークルにはあまり英語は好きではないけれど...という人も参加しています。少しでも聞き取れるようになりたい、話せるようになりたい、と出席しているうちに段々と力がついてくるのがわかります。海外旅行をしても直接現地の人と会話が出来ると、旅の面白さも倍増しますね。

“うえるかむ”では各学習センターのメンバーとの合同行事も沢山あります。最近の例会は5月に東京下町散策、6月には2泊3日で福島県に在るBritish Hillsで英語研修をしてきました。皆さんもお仲間になりませんか。

*例会

“Nancy Class”

第2水曜 10:00~11:30

第4水曜 10:00~11:30

“うえるかむ” ...神奈川...

第3木曜 13:00~15:00

第4水曜 13:00~15:00

*各支部合同 ...毎月1回程度...

*サークル参加ご希望の方は下記へお問い合わせ下さい。

星: 045-844-9647

坂本: 0467-31-8036(19時以降)

放送大学同窓会

早いもので同窓会ができて10年経ちました。情報の場であり交流の場として、同窓会の役割は創立当初よりかなり重要なものになってきました。10年目の区切りの今年、記念誌『波涛特集号』を9月に発行し、会員数も750余名となりました。現役学生諸君にもお読み頂き、卒業の折には同窓会に入会しよう、と思っていなければ嬉しく思います。

今後の行事予定

*「新しい横浜と古い横浜新発見！」

日時: 10月29日(日)13時30分

集合場所: J・R桜木町改札口

申し込み締切: 10月10日

申し込み先:

出口 Tel. & Fax 0467-24-0160

佐々木 Tel. 045-472-6482

*映画鑑賞と坂井先生のお話

日時: 平成13年2月25日(日)

13時30分~16時

映画の題名 「バベットの晩餐会」

*ダンスサークル

平成12年9月から13年3月までは、毎月第三土曜日

13時30分~17時 (変更もあり)
場所 「アイウエオ」 京急、黄金町駅
改札口出て右へ徒歩3分
Tel. 045-252-7848 会場費 1300円
練習及びパーティについての問合せ
西浦 Tel. 045-781-4638
*グランドゴルフ
毎月第3日曜日 午後2時より
大岡グランド(学習センター前)
お問い合わせ 金子Tel. 045-621-3387
(小山佐枝子記)

神奈川放友会

神奈川放友会は会員相互の交流の輪を拡げて親睦を図り、学習を援助する学生団体で下記のサークル活動をしています。

- ・行楽と研修を兼ねた旅行
- ・研修旅行(大学本部・図書館等)
- ・旅にいこう会(行楽地・名所史跡等)
- ・学習に関する情報交換
- ・会員相互の研究発表

恒例のフェスタ・ヨルマも無事終わり新学期に向けて充電中と思います。放友会は貴方が学生生活を更に充実させ交流の輪を拡げるのを援助します。

- ・行事予定(10月~3月)
- 10月1日 入学者の集い(勧誘/歓迎会)
- 11月19日 例会
- 12月16日 忘年会
- 2月18日 旅にいこう会(行先未定)
- 3月17日 例会

・照会/入会申込先: 〒235-0023横浜市磯子区森1-15-1 810号 吉田 昭二
Tel/Fax 045-752-2783

人間学研究会

【講演会開催のお知らせ】

日時: 12/10(日) 13:00~16:00

場所: 神奈川学習センター

神奈川学習センターの坂井素思先生による講演会を開催致します。テーマは『経済学者ヴェブレンの早すぎたポストモダン批判』です。先生は「少し抽象的ですが、冒険的なところを狙っております」とのことです。意欲的なお話を聞かせて頂けると幸いです。この講演会は人間研の例会の一環として開催致しますが、会員以外の方の参加も大歓迎致します。皆さま

ん、ぜひご参加下さい!

【例会予定】(2000/10~2001/01)

10/15(日) 謡曲について 石田さん

11/12(日) 江戸時代の絵図面に見る浦賀港の変遷 大出さん

12/10(日) 上記、坂井先生の講演会

先生の講演の後、『玄や』で忘年会

1/14(日) パソコンとインターネットについて 新井さん

【例会】の連絡先: 松本清康

Tel:045-302-1121

【歩きましょう予定】

11/03(金・祝)~11/05(日) 第23回日本スリーデーマーチ 埼玉県東松山市で実施。参加費は2,000円。宿泊を必要とする方は 101-8368 千代田区神田小川町3-20 日本ウォーキング協会・日本スリーデーマーチ係 電話:03-3295-1002 までお問い合わせ下さい。

11/18(土)~11/19(日) 第2回小田原ツデーマーチ 詳細は朝日新聞でも報道されています。参加費は2,000円。申し込みは10/20までですが、当日申し込みも可能。

11/23(祝・木)~11/26(日) 第15回おくのほそ道を歩く 堺田~羽前赤倉温泉~山刀伐峠~尾花沢~天童温泉~立石寺

第8回汽笛一声(新橋~桜木町)
12/23(土・祝)

【歩きましょう】連絡先: 大出鍋蔵

神奈川学習センターだより編集部

発行者: 新飯田宏

編集者: 五十嵐、遠藤、星、

加藤、松本、皆川、吉田、

斎藤、浅野、坂井

・今回の表紙イラストも、前回に続いて坂戸五葉さんに描いていただきました。学生の方の原稿を募集しております。

放送大学神奈川学習センター

〒232-0061

横浜市区南区大岡2-31-1

TEL:045-710-1910

FAX:045-710-1914

E-Mail:social@u-air.ac.jp

http://u-air.net/kanagawa/